

技術開発調整監

技術開発調整監及びそのスタッフは、北海道開発に係る土木技術について、基礎的研究に加えて技術開発、指導・普及を一体的に実施する体制を整え、北海道開発の推進に必要な技術的課題の解決をより一層効果的・効率的に実施することを目的として、国土交通省北海道開発局から土木研究所へ技術開発に関連する業務と人員が移管されたことに伴い、平成 20 年度に発足した組織である。

当初、技術開発調整監のもとに、寒地技術推進室、道央、道南、道北、道東の 4 支所及び寒地機械技術チームが設置されたが、その後、業務運営の効率化等の観点から、道央支所については平成 24 年度より、道南支所については平成 25 年度より寒地技術推進室に集約化した。

寒地技術推進室は、土研新技術ショーケース等北海道内外における研究成果の普及や知的財産のマネジメント、支所は道央、道南地域を除く北海道内各地域での技術普及活動や研究チームと連携した地域での研究活動を行っており、技術者フォーラムを開催するなど地域における技術的課題の解決に向けた産学官の交流・連携を図っている。

平成 22 年度からは、北海道内の自治体と締結した技術支援に関する協定や「土木技術のホームドクター宣言」に基づき、平時及び災害時の技術相談や技術指導、各種技術講習会の開催及び講師派遣、自治体が主催する技術検討委員会への参画等、技術支援活動を強化している。

寒地機械技術チームは、大正 8 年に設置された旧北海道庁石狩川治水事務所江別機械工場がその源で、ここから北海道開発のための建設機械の技術開発が開始された。その役割は、昭和 26 年に北海道開発局建設機械工作所、平成 13 年に北海道開発局事業振興部防災・技術センターを経て現在に至っており、伝統的な研究課題である除雪機械や災害対策用機械の機能向上に関する研究をはじめ、積雪寒冷地域における各事業分野の機械技術や情報通信技術を活用した研究開発に取り組んでいる。また、土木施設や機械設備のストックマネジメントに資する点検技術や調査方法の効率化、高度化の研究開発を進めている。



写真－1 技術者交流フォーラム



写真－2 ロータリ除雪車を通年活用するためのアタッチメント式路面清掃装置（北海道開発局で導入）